南部アフリカ　柑橘類の輸出は課題はあるものの成長を予測

FreshPlaza　2025年4月29日

南部アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）は、2025年の柑橘類輸出シーズンの見通しの概要に関する声明を発表し、いくつかの重要な課題はあるものの安定した成長を予測している。

南部アフリカの柑橘類産業は、2025年のシーズン中に合計1億7,110万箱（15kg/箱（特記した場合を除き以下同じ））の柑橘類を輸出するものと予測されている。この数字は、昨年の最終的な輸出数量と比較して3.6％の増加に相当する。

CGAのCEOであるボイチョコ・ンシャビリ博士は、「我々は今シーズンについて慎重ながらも楽観的である。業界がこれまで歩んできた堅調な成長軌道は今のところ維持されている。しかし、深刻な脅威は残っている。今シーズンの重要な要因の1つは、一部の生産者にとって米国市場を混乱させる可能性のある関税騒動である」と述べた。

ンシャビリ氏は、南アフリカと米国の政府間で、季節的な青果物についての貿易上の手打ちまたは免除を確保する緊急性を強調した。そのような合意がなければ、一時停止されている30％の関税が2カ月半後には発効する可能性がある。

晩生のマンダリンの改訂推計値が追加され、2025年の推計総輸出量がまとまった。リアンリ品種の輸出量は2024年の220万箱から微減の210万箱、オッリ品種は横ばいの210万箱と予想されている。ナドルコット/タンゴ品種は若い果樹の成木化に牽引されて力強い成長を示しており、昨年の2,330万箱から2,570万箱に増加すると予測されている。その他の晩生のマンダリン品種は、2024年の270万箱から320万箱に増加すると推定されている。

これらの晩生マンダリンの推計値は、CGAが3月に発表した今シーズンのレモン、オレンジ、グレープフルーツ及び早生マンダリンの推計値に続くものである。レモンの輸出量は、2024年から5％減の3,290万箱と予測されている。ネーブルオレンジは5％増の2,610万箱、バレンシアオレンジは6％増の5,200万箱と予測されている。グレープフルーツの輸出量は1,350万箱（17kg/箱）と推定され、これも6％の増加となる。早生のマンダリンについては、ウンシュウミカンの輸出量は180万箱で横ばい、ノヴァ品種は2％増の450万箱、クレメンタインは10％増の540万箱と予想されている。

ンシャビリ氏は、「これまでのところ、2025年シーズンに向けて好調なスタートを切っているようだ。シーズン序盤は、主にレモンとグレープフルーツの輸出が大部分を占めている。レモンは需要があり、価格が良いようだ。また、グレープフルーツの輸出量は昨年の同時期よりも55％多い」と述べた。

CGAの最高執行責任者（COO）であるポール・ハードマン氏は、柑橘類セクターの将来の成功は主要な課題の解決にかかっていると強調した。これには、港湾の物流の非効率性、迫り来る米国の関税の不確実性、その他の市場での既存の関税、厳格な植物検疫措置による欧州連合等主要地域へのアクセスの制限等が含まれる。ハードマン氏は、これらの問題が解決されれば、柑橘類産業は輸出をさらに拡大し、2032年までに南アフリカ経済にさらに10万人の新規雇用をもたらす可能性があると付け加えた。

訳注：南部アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）は、南部アフリカ（南アフリカのほかジンバブエ、モザンビーク、ボツワナ、エスワティニ、ナミビアを含む）の輸出用柑橘類の生産者の利益を代表しています。（同協会のウェブサイトによる）